

川本貢功写真集

松江

II



周藤弥兵衛像（八雲町）
Statue of Yahei Sudo (Yakumo-cho)

2014年松江市八雲町意宇川に周藤弥兵衛翁の像が建立された。八雲町出身の小松電機産業株式会社々長、小松昭夫氏から寄進されたもので今は観光の名所になっている。

すどうやへえ ひよし きりとおし 周藤弥兵衛 日吉の切通

慶安4年（1651）、意宇郡日吉村（現在八雲郡日吉）に生まれる。生家は代々下郡役を務める豪農で、19歳で三代目弥兵衛を継ぎ、61歳で職を辞し長男に譲る。その二年後仏門に入り、良利を名乗る。祖父（初代）弥兵衛家正は、たびたびの村の被害から護るため、3年間にわたり剣山の一角を開削して意宇川の流れを変え、築堤し、新田を開拓した。しかし元禄15年（1702）の大洪水で決壊し、本田・新田とも跡形もなく破壊され、その被害は莫大であった。孫の三代目弥兵衛は祖父の偉業を継ごうと、私費開削を松江藩に願い出、自ら鉄槌をもって岩山開削・川違工事に着手。延享4年（1747）までの42年間をかけて完成させた。良利97歳であった。このうち36年は一人での作業といわれている。宝暦2年（1752）没、101歳であった。また、それより以前、貞享から元禄期（1684～1704）には、寛文8年（1668）の早魃以来さびれていた古志原村の開発・復興にも若い下群役として務めている。

なお、周藤弥兵衛が心血を注いだこの日吉の切通は、その後良利没後も切り開かれ、川幅最大33メートルにも及ぶ大川である。